

## 令和6年度都立看護専門学校推薦入学試験小論文課題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

「相手の話を丁寧に聴く」というのは、簡単なようで、とても難しいことでもあります。

最初は話を聞いていたのに、気がつくやうに、自分の体験談やアドバイスを話してしまっている。

相手が話していないことまで勝手に自分の頭の中で想像して補い、わかったよな気になってしまう。

そんな人は、案外多いのではないのでしょうか。

特に、相手のことを少しでも理解したと思ったとたん、人は相手の話を聞かなくなりがちです。

家族や親友など、気心の知れた人に対して、相手がまだ話している途中なのに「聞かなくてもわかるよ」とさえぎってしまったことはありませんか？

医療の現場でも、紹介状によって病状などを把握した医者が、病気の辛さを訴える患者さんの話をあまり聞かずに診察を進める、ということがしばしばあります。

話を聴き、その苦しみを共に味わうことで、患者さんの苦しみが和らぐこともあるのに、残念ながら、そこに気がつかない医療者が多いのが現状です。

話を聴くときには「相手は、自分とは違う人間である」と認識し、先入観や思い込みを捨てる必要があります。

ちなみに私は、患者さんの話を聴く際には、相手の話すテンポを大切にします。適度にあいづちを打ち、ときおり相手の表情をうかがうことも心がけています。いずれも、患者さんに安心して話していただくためです。

さらに、患者さんには忙しそうなお様子を見せず、できるだけのんびりゆったりと構えます。

出典：小澤竹俊著（2016）「今日が人生最後の日だと思って生きなさい」  
株式会社アスコム

（設問）

著者が伝えたいことを200字程度に要約した上で、「相手の話を聴くこと」について、体験を踏まえたあなたの考えを、要約を含めて800字程度で述べなさい。

**【お詫びと訂正のお知らせ】**

出典の出版年について、誤りがございました。ここに深くお詫びし、下記のとおり訂正させていただきます。

(誤) 2021 → (正) 2016

※訂正後の内容で掲載しております。